



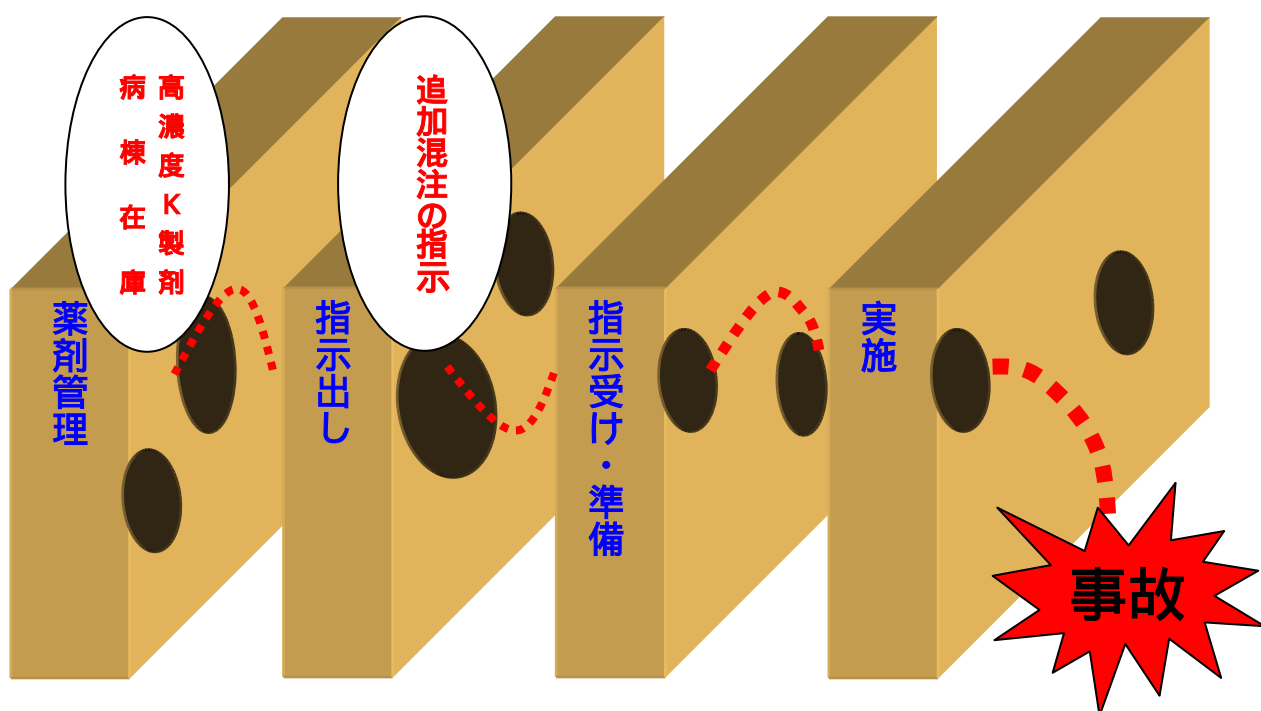
ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



「追加混注」を禁止して注射業務の 安全性をアップさせよう

この間報告のある「KCL注・アスパラK注」など高濃度カリウム製剤による医療事故の教訓・共通点は以下のとおりです。



教訓としては、医療事故の指示出しの「追加混注指示」が安全性に大きい穴をあけていることです。この指示が、高濃度K製剤を患者側へ持ち込む起点となっています。

病院での「全ての追加混注禁止」ができれば、危険の回避が可能になります。

「追加混注指示」ではなく、新しい指示を出して輸液そのものをつくりなおすことや、次回の輸液からの指示とすれば、安全性が高くなります。

労働科学研究所による調査では、注射事故防止の3つのポイントとして

- 病院・病棟において実効可能な対策
- 医療・看護の質の向上をめざした対策
- 看護師の業務負担を考慮した対策

をあげています。

日常的に運用しやすく徹底しやすい対策、そして経験年数が少ない看護師でも遵守できる対策を全職種が協力してすすめていきましょう。